

豊橋市美術博物館友の会だより—2008年—冬号

Vol.67
FU風伯HAKU
Winter 2008



風伯

展覧会紹介

東三河の花鳥画

豊橋市美術博物館館長 金原宏行

花鳥風月をテーマとする絵画が東三河では古くから盛んに描かれてきた。これは四季折々の変化に富んだ日本の風土が生んだ伝統であり、神話や宗教世界を描くことが長く続いた西洋の風景画や静物画（花鳥画を含む）は、神話や歴史人物を描いたものに比べ、低い地位にあった。

中国の宋時代に院体画が成立し、徽宗皇帝による花鳥画が生まれ、それらは北宋画（骨法、線描が強いのが特色）と呼ばれた。日本に入って室町時代に狩野派が生まれると、花鳥画に雪舟や雪村などが出、ここから桃山時代の金碧障壁画に発展し、狩野元信や永徳によって四季花鳥図として江戸時代に入って多くの障壁画や屏風が生まれた。

名所絵（山水画）は歌枕に則り和歌を詠み、それにあわせて絵を制作したことが起源で、名所が人口に膾炙するとともに画題として確立した。これらも花鳥画同様、室町時代から始まり、山水画（西洋でいう風景画）として富士山を別格に、松島、天橋立、厳島神社（安藝の宮島）が3大名所として名高い。武家の世では床の間を四季の軸物で飾る必要があり、江戸幕府の御抱え絵師である狩野派の画家（幕府の公務員的性格を持つ）は、こうした需要に応じて花鳥画を多数制作してきた。

東三河には狩野派の山田洞雪、香雪のほか、円山四条派の渡辺南岳に就いた恩田石峰らが輩出し、西尾生まれの原田圭岳は、江戸の岡本豊彦（円山四条派）に師事し、花鳥画に優れており、吉田に住みついた。谷文晁門下で、二本松出身の根本愚洲と一緒に旅をした稲田文笠は、吉田藩御用絵師として活躍し、文笠門に鈴木拳山などが輩出している。拳山は上京して鈴木葛



椿山「海鶴帰桃図」
嘉永5年（1852）

湖に学んだあと兎足神社（小坂井）に勤め、この地域で谷文晁風の南北の二宗を総合した花鳥画を描いた。写生と装飾を融合し、画域が広く魚貝類の写生に特色がある。

田原池之原に天保11年（1840）蟄居した渡辺崋山とその友人椿山に訓育された崋山の次男小華などによる崋椿系南画家（中国の文人画の精神を継承する）が幕末の東三河に輩出したため、彼らの作品は、明治期以降も広く愛蔵されたのは、未だ儒教的な教養が広く普及し

ていたことと関係がある。特に椿山（《海鶴帰桃図》が出品される）に加え、明治7年に来豊し、同10年から15年まで豊橋・吉田神社奥の百花園（丹精した草花があり、田藩士中西建蔵の命名）に住んだ小華は、水墨の花鳥画に優れ、明治宮殿に残した色彩豊かな杉戸絵4面（明治20年、建物は焼失したが、杉戸絵は現存）は代表作となっている。

ホテルオークラ東京で企業所蔵の名品による「花鳥風月」展（平成18年）が開催され、江戸から現代にかけての名品が大方の好評を博したが、こうした動向と自然との共生が叫ばれている今日、東三河地方の画家によるこれら花鳥画作品を新しい眼で見ることが必要であろう。

館藏品の中から江戸時代後半の崋椿系のほか山本梅逸から現代の中村正義、平川敏夫に、洋画の野田弘志なども加えた約100点による花鳥風月展は、伝統がどう継承されているか振り返る機会である。



ホテルオークラ東京で常陸宮同紀園殿下を案内する金原館長

豊橋市美術博物館収蔵品展「花鳥風月」～3月23日まで
2階第1～5展示室 観覧無料

【出品作家】

恩田石峰・山本梅逸・渡辺小華・山元春季・中村正義
高畑郁子・平川敏夫・平松礼二・大森運夫・佐藤多特
野田弘志・權田伸也・岡田徹 ほか

*ボランティアガイドによる作品解説を行っています。
月曜・木曜をのぞく毎日 午後1時30分～午後2時30分～

東海道五十七次宿場展 ～伏見・淀・枚方・守口・大坂～

2月16日〔土〕～3月23日〔日〕 二川宿本陣資料館

(月曜休館 ただし3月3日(月)は開館)

二川宿本陣資料館では、「東海道五十三次宿場展」と題して、これまで東海道の各宿場を14回にわたって紹介してきました。東海道は、江戸と京・大坂をむすぶ街道として幕府から最も重視された街道であり、大津宿から分かれて大坂に至る街道を含めて「東海道五十七次」と呼ぶ場合もありました。

この区間は東海道とほぼ並行して淀川が流れ、さらにその対岸には西国街道も通り、陸路・水路の3ルートが集中するという、五十三次間とは異なる様相を呈した独特の区間ともいえます。その中から今回は、伏見・淀・枚方・守口の4宿と大坂を取り上げ、浮世絵、屏風、絵図、絵巻物、名所図会、古文書などの資料により、当時の宿場の様子や人々の暮らし、往来する旅人の姿を紹介します。

中でも歌川広重が描いた浮世絵「浪花名所図会」には、東海道五十三次シリーズに比べて多くの人物が登場し、大坂のにぎわい、民衆の活気あふれる様子をつぶさに表現しています。この機会にぜひご覧ください。



「毛馬」(浪花百景)
歌川芳雪画 大阪城天守閣蔵

◆講座「淀川と兩岸の街道～いまむかし～」

- ① 3月8日(土) 「東海道枚方宿を中心に
～京街道の守口・枚方・淀・伏見の宿駅～」
中島三佳さん(宿場町枚方を考える会顧問)
 - ② 3月15日(土) 「西国街道～芥川宿を中心に～」
西本幸嗣さん(高槻市立しろあと歴史館学芸員)
 - ③ 3月22日(土) 「淀川物語」
柏永正光さん(淀川資料館マネージャー)
- *いずれも午後2時～二川宿本陣資料館講義室
*参加費/初回参加時のみ入館料が必要、
2回目以降無料
*申込方法/二川宿本陣資料館(TEL.41-8580)
へ電話で申込み
(先着50名)



「錦歌場魚市の図」(浪花名所図会) 大阪歴史博物館蔵

Museum Check お出かけになりませんか？

会場	会期	展覧会名
名古屋市美術館	～3月23日	北京展
名古屋ポストン美術館	～4月6日	ポストン美術館 浮世絵名品展 ～色あざやかなり 江戸の夢
徳川美術館	～4月6日	尾張徳川家の雛まつり
松坂屋美術館	2月23日～3月16日	小堀遠州 美の出会い展
松坂屋美術館	3月20日～4月15日	相田みつを全貌展
豊田市美術館	～3月30日	牧野義雄展/若林奮100の羨望
岡崎市美術博物館	～4月13日	現代のコンフィギュレーション ～色さまざま彩いろいろ
静岡県立美術館	～3月30日	ガンダーラ美術とパーミヤン遺跡展
静岡市立芹沢銈介美術館	～5月18日	芹沢銈介の生活デザイン
国立新美術館	～3月3日	没後50年 横山大観 ～新たなる伝説へ
国立西洋美術館	3月4日～5月18日	ウルビーノのヴィーナス ～古代からルネサンス、美の女神の系譜
東京都美術館	～4月6日	ルーヴル美術館展 ～フランス宮廷の美

一枚ずつのシンフォニー

～豊響100回記念定期ポスター展への期待～

豊橋交響楽団音楽監督 森下元康

豊橋交響楽団が設立されたのは、昭和40年6月、東京オリンピックの翌年でした。その少し前の昭和36年、当時私は豊橋市立羽田中学校の国語教師で、愛知学芸大学在籍中に桐朋学園を受験したものの入学金が払えず先生になった、いわゆるデモシカ教師でした。音楽の道は一度挫折しているのに、学校長の命令で全くのゼロから器楽合奏を始めることになってしまいました。ところが1年後の昭和37年、秋に開催された第1回NHK全国器楽合奏コンクールで全国優勝してしまうという奇跡が起きました。

話の端緒はここから始まります。まず私の最大の錯覚は、このときのメンバーが卒業するということをおぼえていたことです。朝から夜まで練習に練習を重ね、父兄の皆さんからの苦情が絶えず、それでも次の年は全国2位。子どもたちと抱き合って泣きながらも3月の卒業式のことを気がかりだったことを思い出します。

じつは、子どもたちと別れない方法が一つだけあったのです。苦し紛れに考えついた、OBを中心に市民オーケストラをつくるという奇策です。第1回定期の昭和40年頃の豊橋市公会堂には、もちろん冷房装置などありません。安物の背広で指揮をしていたら、汗が滲み出してハート型に見えたそうです。

今回のポスター展100回分を一人で描いていただいた伊奈彦定先生とは、羽田中学校時代の同僚で一年先輩の美術の先生です。第1回のポスターはアコーディオンとコントラバスを配したシックなもので、プログラムも同様のデザインでした。まさかそれから100回も続くとは、当の本人たちも思ってもみませんでした。伊奈彦定先生は今では路面電車の権威として、全国でもその活動と絵「市電のある風景」は高い評価を受けています。私の兄貴分として教師の領域はもちろんのこと、オーケストラ活動のさまざまな危機にいつも助けていただきました。豊橋交響楽団が東京公演を開催した昭和46年、そして翌年発足した現在の日本アマチュアオーケストラ連盟の設立、さらに翌年の第1回全国アマチュアオーケストラフェスティバル豊橋大会など、ポスターからシンボルマークにいたるまですべてをボランティアで製作していただきました。途中ついに資金繰りができなくなりポスターが作れない年もありましたが、定期演奏会以外の特別コンサートを含めると百数十点になります。

故神野太郎さんに生まれ、現在日本アマチュアオーケストラ連盟として神野信郎会長の下で成長してきた私たちは、全国145団体の代表として本部を預かってから37年が経ちました。そして昨年暮れ



には、NPO法人世界アマチュアオーケストラ連盟も機構を一新し、この豊橋の地で、世界の本部として国際交流の先頭に立とうとしています。その20ヵ国以上のアマチュアオーケストラの仲間を訪ねると、必ず、コンサートホールはもちろんのこと美術館・博物館の自慢をされます。考えてみれば、どんなに伝統のある国や街でも、その街の知性と品格はもともとあったものではなく、その市民の精神的な拠り所や芸術的に満たされたいという至極健全な欲求によって育ってきたものなのでしょう。

今回、100回記念定期演奏会の関連行事として、3月18日から23日まで豊橋市美術博物館において定期演奏会のポスターと新村猛氏の写真を中心に記念展覧会を開催します。今から43年前の草創期における焼け付くような情熱と、音楽的には稚拙ではあっても少しでも向上したいという「われらの坂の上の雲」から現在に至るまでの交響群像を見て取ればと願っています。そして、この記念展覧会は本来の意味での展覧会とはいささか趣が異なりますが、市民文化活動の脈動という観点からご覧いただければ、それなりの意味が込められていることに気づかれるのではないかと思います。

ポスター一枚ごとに響くシンフォニーを糧に、「新たな地平に」向かっていくことをお約束し、豊橋交響楽団を支えてくださった市民の皆さんや、芸術家として親友として共に歩いていただいた伊奈彦定先生に、改めてお礼を申し上げます。

そして私の夢。多くの美術作品を鑑賞した人たちが、ほっと一休みする小さなコンサートスペース。そこではモーツァルトやブラームスが柔らかく心を包んでくれる。そんな新美術館を想像しています。

美術博物館整備の今後の方針と計画

～市民の輪を大きく広げていく積極的な取り組みを～

豊橋市教育委員会教育部長 青木 哲夫

はじめに

「これからの豊橋の美術博物館を考える」シリーズとして、整備の今後の方針と計画というタイトルで市としての考えをとの依頼ですが、現時点におきましては、それを具体的に言及することができません。従って、ここでは風伯65号で報告しました今までの経緯について、改めてより詳しくご説明するとともに、今後の取り組みについて友の会の皆様方をお願いしたいことをまとめてみました。

第4次基本構想・基本計画について

新しい美術博物館の構想が具体的に動き出したのは、平成13年3月策定の「第4次豊橋市基本構想・基本計画」に美術博物館の整備が位置づけられたことから始まりました。この基本構想・基本計画は、時代に対応した政策・施策を計画的に進めるため、本市のめざす将来の都市像とこれを実現するために必要な施策の基本的な考え方を明らかにしたもので、平成13年度から22年度までの10年間を計画期間としています。その中で、美術博物館は建設から多年を経過し、時代の変化とともに市民の様々な需要に応えられる十分なスペースが足りなくなっている状況から、「文化の薫るまちづくり」「まちなか文化の創造」のための施策の一つとして、美術館・歴史館・収蔵庫等の整備を行うとされたものです。そして、平成14年3月には美術博物館協議会や友の会の意見も踏まえて「豊橋市美術博物館等整備事業基本計画」を策定し、その後「豊橋市美術博物館設計者選定手法等検討委員会」を設置するなど、整備実現へ向けての作業を行って参りました。

第4次基本計画の見直しについて

第4次基本計画は10年間の計画ですが、大きく前期（13～17年度）と後期（18～22年度）に分かれています。前期計画期間の終了に伴い、社会情勢の変化や新たな市民ニーズに対応しながらまちづくりを進めていくため計画の見直しを行い、平成18年2月に「後期基本計画」がまとめられました。当初の基本計画には「美術博物館の整備」をはじめ、「こども関連施設」、「総合文化学習センター」、「保健所・保健センター」、「総合スポーツ公園」、「ごみの最終処分場」など様々な主要施設の整備が盛り込まれていましたが、厳しい財政状況のもと、重要性や緊急性、

市民生活への密着度、地域経済活動の活性化、又これまでの当該事業の進捗状況など総合的な判断のもとに見直しがされ、美術博物館の整備については「次期計画で検討」という結果となったものです。なお、教育関連施設では、総合文化学習センター（芸術ホールを除く）、総合スポーツ公園、中央図書館の整備も見送られる大変厳しい結果となっています。

次期総合計画策定にむけて

第4次基本計画の後期改訂において「次期計画で検討」となった美術博物館整備ではありますが、これは次期総合計画に盛り込まれることが約束されたものではありません。

本格的な高齢化社会を迎え、様々な行政課題が山積している中で、市民各層からも様々な要望が行政に寄せられています。また、高度経済成長期に建設された多くの施設が今後次々と更新時期を迎えます。厳しい財政運営が続く中、美術博物館整備にとって、大変厳しい状況はこれまでと変わりありません。美術博物館整備を次期総合計画に位置付けるためには、その必要性について、どれだけ多くの市民に理解され、支持していただき、市民的コンセンサスを得られるかにかかっています。

次期総合計画の策定作業は来年度から具体的な作業が始まるものと思いますが、友の会の皆様におかれましてもそれぞれの立場で様々な機会を捉えアピールしていただくなど、市民の輪を大きく広げていく積極的な取り組みが大切です。



まだ見えない新美術博物館建設延期への反応 はっきり声に出さないと前進しないのが現実

前号の「これからの豊橋の美術博物館を考える その2」に対し、8通のアンケートをいただきました。その貴重な声をご紹介します。

「豊橋市は、愛知県東三河の中心都市で、人口約38万人の中核都市でもある。その中心街にあり、公園の豊かな緑に囲まれて、しかも豊橋駅からは全国でも数の少ない路線電車という交通機関にも恵まれたこのような環境のよいところにある現在の豊橋市美術博物館は、他の美術館・博物館と比較して見劣りしませんか？本来ならば美術と博物を切り離した施設が理想的だと考えられますが、やむを得ない場合は、現在のような美術博物館方式でもよろしいですが、いずれにしても現在の施設では、施設そのものが老朽化し、陳列場所、収納場所等が狭く見直しする必要があると思います。以前検討され頓挫したようですがどうなっていますか。他地域の美術博物館へ訪問すると多くの方が参観されています。豊橋市の美術博物館は、市外からの参観者はどの程度ありますか？豊橋市美術博物館も早く広く立派になり良いものを沢山陳列できれば、豊橋市民はもちろん、他の県や市外からも多くの人々が来て下さると思います。豊橋市の目玉になるような美術博物館にしてほしいものです。豊橋市の活性化のためにも、会員のみなさんも知恵をだしませんか？」

(遠山隆男)

「美術博物館に足を運ぶことは、大変楽しみにしています。豊橋の街の中央にあり、豊橋公園の四季の移り変わりも体感でき、緑に囲まれた位置にあることがとてもいいです。私は、特に休憩スペース（1階）のガラス面一面より見る外の風景がとても大好きです。全てのイベントには参加できませんが、なるべく行くようにしています。美術博物館に行った日は、心が豊かになった気分になります。老朽化ですか！美術博物館運営の為に多くの方が御苦労されているようですが、いつまでも豊橋の文化の財である美術博物館をよい形でいつまでも運営していただきたいです。美術館と博物館両方一律運営にはやはりむづかしいのではと思ったりもします。」

(荒津道子)

「新しい美術館延期は非常に残念です。かといって予算のない中途半端なものでは建てられません。この状況の中で大口寄付もなかなか望めません。もう少し時期をみて、出直しすべきでしょうか。」

(牧野政子)

「幼い頃足を運んだ動物園の面影を残し、付近の教会や公園の入口がそのままである豊橋市美術博物館は、今豊橋を離れている私にとっては、かけがえのない場所です。（収納庫が一杯、設計時に想定がどうなっていたのか）と記されていますが、物というのは机上の計算だけでは測れないことがあるのは当然だと思います。」

(伊豫田幸栄)

「美術館という建物を中心とした大きな自然の中にある美術館にしてほしいです。グラウンド、テニスコート等は移転して、美術館の駐車場はすぐ目の前に設けるのではなく、少し遠くに大きくとり、歩きながら自然の中にアートを感じてもらい、芸術鑑賞へ気持ちを高めながら美術館へ入館できるようにしていただきたいです。周辺にある豊川、茶室、公会堂、吉田城など文化・芸術につながるものをもっと整備し、活用して他市・他県からでも足を運んでもらえる豊橋市民の自慢の美術館にしていきたいです。例えば、市民参加の展覧会、一流の芸術家の展覧会をただ開催するのではなく、毎年少しずつ新しい試みをして、もう一つ楽しめる付加価値をつけた展覧会を企画してもらいたいです。交通の便も市電、電車（イベント時にはシャトルバスなど）を入館料とセットにして車以外でもアクセスを良くして、豊橋駅前・商店街などに足をのばしてもらい（時には市電で葦毛湿原などへも）豊橋市全体の活性化につなげていただきたいと思います。」

(広田 彰)

青木哲夫教育部長が、「美術博物館の整備には、市民の輪を大きく広げていく積極的な取り組みが必要です。」と言われています。逆に言えば市民から声が上がらなければ財政難の今、建設は難しいと、言うことです。人生に、潤いと感動を与えてくれる新しい美術博物館が欲しい、と言う気持ちが、私達には強くあります。しかし、それが会員の皆様や市民の共通した強い気持ちかどうかは、まだ分かりません。今月号の豊橋市としての考え方を読み、このアンケートの声を読み、あなたの意見と感想をお寄せください。あなたの声があれば、前に進む勇気と力が湧いて来ません。どうぞ、お力をお貸しください。

「風伯」編集部

友の会 秋の研修旅行を終えて・・・

昨年11月15日(木)、「金原宏行館長と観る、静岡の美術館」と題した日帰り研修旅行を行いました。

バスの中で、これから向かう各美術館について金原館長からレクチャーがあり、80名わくわくで出発しました。

《静岡県立美術館》では名所絵の世界から日本の名所探訪ができ、あらためて日本の心を知りました。

どんぐりの形をしたかわいらしい建物。《ねむの木こども美術館》で出会った目を見張る感性豊かな絵。宮城まり子さんと子ども達に「やさしいことはつよいことよ」と教えてもらいました。

95歳で亡くなられた高山辰雄画伯。《資生堂アートハウス》での邂逅に感謝。特別に資料館も開館して下さいました。

今回も研修旅行の募集と同時に多くの参加申込みがあり、皆様の美術に対する造詣の深さとご協力に感謝いたします。

(研修旅行担当理事 山崎恵子)



ねむの木こども美術館

アンケートから

- 金原館長さんに丁寧な講義をしていただいたので、美術館が親しく感じられました。絵の見方を教えて頂いてありがとうございます。いろいろと企画された役員の方々の努力に感謝します。
- ロダン館のブロンズ群、荒々しいけれども力強さを感じる像の数々から元気をいただきました。
- 子供らしさ、及び子供らしからぬ画があり面白く感じた。また、感動し、宮城まり子さんの苦勞がしのばれ、感謝の気持ちがわいてきました。宮城さん、ありがとう。
- 高山さんの絵が良かったです。花びらの一枚一枚に命がふきこまれているようで。
- 高山辰雄の作品に感動した。洋画風な日本画で今の私達にはしっくりする。
- ねむの木こども美術館、たまらなくいとおしく感じ入りました。色、ていねいさ、根気の傾け方、感動+LOVE!
- こどもの絵の、生まれてきたそのままの素直さ、感性の素晴らしさに感動しました。色彩の配色の調和の美しさに感心しました。パレットにさっと手筆が選ばれるのでしょうか。繊細な筆、大胆な筆、見せてくれてありがとう。

平成20年度 豊橋市美術館企画展 スケジュール

- 豊橋市美術館「新」収蔵品展
【Part 1】4月5日(土)～5月6日(火)
【Part 2】7月1日(火)～8月24日(日)
- 第30回豊橋美術展
【写真・書道】4月22日(火)～27日(日)
【絵画・彫刻・デザイン】4月29日(火)～5月4日(日)
- 生誕290年 木喰展一庶民の信仰・微笑仏一
5月16日(金)～6月22日(日)
- こどものとも「絵本原画展」
7月15日(火)～8月17日(日)
- 第4回トリエンナーレ豊橋 星野眞吾賞展
8月20日(水)～9月15日(月・祝)
- 上村松園・松篁・淳之展
10月4日(土)～11月16日(日)
- 第58回豊橋市民展
【絵画・彫刻・デザイン】12月2日(火)～7日(日)
【写真・書道】12月9日(火)～14日(日)
- 豊橋市美術館収蔵品展
2月3日(火)～3月22日(日)

平成20年度 **3月1日(土)より受付開始**

友の会会員の更新をはじめます。

本年度も上記展覧会鑑賞のほか、研修旅行(春の研修旅行は同封のチラシをご覧ください)やミニコンサートなど充実した企画を予定しています。お早めに手続きをお願いいたします。

会 費

- 正 会 員 3,000円
(同一住所の家族は2人目から2,000円)
- 特別 会 員 (個人) 10,000円
- 賛 助 会 員 (法人) 20,000円
- 風 伯 会 員 1,200円 (豊橋市内の70歳以上)
- 高校生 会 員 1,500円

更新方法

- ①美術博物館●窓口にてお納めください。
- ②郵便局●最寄りの郵便局で同封の払込票によりお納めください。払込手数料はかかりません。
- ③銀行●下記口座へお振込みください。振込手数料が必要となります。

三菱東京UFJ銀行 豊橋支店 普通 4806768

口座名：豊橋市美術館友の会

収蔵品紹介

[椿樹]

平川 敏夫 ●HIRAKAWA, Toshio

1970年(昭和45)紙本着彩
130.0cm×193.0cm

樹木のシリーズを展開してきた平川の画業のなかでも《椿樹》は華やかな色彩と装飾性に彩られた作品である。この頃にはかつてのような樹々の集合体ではなく、京都や奈良の社寺が誇る名木・巨木を単体でとらえた作品があらわされた。本作品の椿は京都・地藏院の五色八重散椿が主題となっている。

地藏院は京都北区にある浄土宗の古刹であり、椿寺の愛称で知られる。書院の前庭に咲くこの椿は、加藤清正が朝鮮出兵(文禄の役)の際に蔚山城から持ち帰り、秀吉に献上されたという。白地に縦絞りのほか、紅・薄紅・白・白覆輪に咲き分け、花びらが一枚一枚散り落ちることから五色八重散椿と呼ばれる。同じ地藏院の椿をモチーフとしたものに、速水御舟の《名樹散椿》(重要文化財/山種美術館蔵)が知られている。

現在の椿は二代目で樹齢は100年ほどであるが、画中の椿は伝説に彩られた銘木にふさわしい威容を誇っている。朱に染められた木の幹は、平川が樹木や生命力を燃え立つような朱色に託した時期の名残であろうか。夕陽の照り返しではなく、樹木の内部に脈打つエネルギーを表出したかのようで、どこか艶



めかしい。葉や花心には金泥がほどこされ、華麗かつ重厚な趣を沿えている。文禄の役で彼の地に流された血と、北野大茶会に象徴される絢爛たる桃山文化という、相反するイメージが渾然となってこの椿を彩っているようにも思われる。

その後、1980年代に入ると平川の画面から、しだいに華やかな色彩が消え、墨の濃淡のみによる水墨の世界へと展開した。色鮮やかな本作品はモノクロームのトーンが多い平川の画業にあって貴重な存在といえよう。現在開催中の「豊橋市美術博物館収蔵品展～花鳥風月」において公開している(3月23日まで)。
(豊橋市美術博物館学芸員 丸地加奈子)

編集後記

年齢のせいでしょうか、最近、憧れの画家の晩年の作品に惹かれます。寡黙な静逸さの漂う絵の前に佇むことが多くなりました。作者の積み重ねてきた軌跡を凝縮させ、単純化した絵の奥に何が語られているのかまでは鑑賞できませんが、自分なりに感動をもちますと、平凡な日常のグレードが上がり、充実した数日間を過ごすことができます。

今年度は、風伯の表紙も編集長の英断のもと刷新されました。まだ試行段階と思われますが全面に作品を載せてインパクトを強める試みは伝わりましたでしょうか。

会員の皆様のご意見、ご要望、アイデア等をお待ちいたしております。また編集にも振るってご参加いただきたいと思ひます。
(奥野富美子)

【表紙作品】

中村 正義(蒼菴)(部分)

1968年(昭和43)紙本着彩 各73.0cm×60.6cm

「豊橋市美術博物館収蔵品展～花鳥風月」展より

豊橋市美術博物館 友の会だより「風伯」第67号

編集・発行 豊橋市美術博物館友の会

会長 原文成

担当副会長 宮田正人

編集長 鈴木伊能勢

編集委員 神野能生子 奥野富美子 福島陽子

協力 豊橋市美術博物館

〒440-0801 豊橋市今橋町3-1 TEL.0532-51-2882

平成20年2月20日発行(5月・8月・11月・2月各20日発行)

平成10年3月17日 第3種郵便物認可 定価200円

※会員は会費に含みます。※定価には消費税が含まれます。